



為児忘醜

よい教師は

己を空にして

子どもとともに生きてゆく

よい教師は

大愚となつて

子どものための活動をする

岡崎女子高等学校副校長

稲葉浅吉



昭和49年9月2日

編集・発行

岡崎市教育委員会

(鉛筆塚 常磐東小)

私の五十年代

加藤 庄一

P・T・A 嫌いだった私が、城北中

学校 P・T・A の仕事を十年間つづけてしまいました。(食わず嫌いではありません)

長女が入学するのについて行って、校長の式辞を聞きながら「おかしな校長だなあ」と思ったのがはじまりでした。長女が卒業した年に長男が入学しました。

初代会長・石原さんの子どもさんが卒業し、早川商工会議所会頭さんのご長男が入学されるため、次期会長に早川さんが話題にのぼり、ついに口説き落とされた

と聞いておりました。校長が私の所へ来られ「どうだん。早川さんが会長を承諾してくれた」と申されたので、口説きじようずを、ほめてあげたところ、「いや、条件があるのだよ。副会長に私の意中の人で、都合の悪いときにも代理をしてくださる人ということだね……今、早川さん

の会長は、すばらしいとほめたでしょう。そのほめた早川さんが、まる庄さんが副をやってくれるなら、会長は引き受けてもよいと言われたのですよ」と、ひもつきのわなに、ひっかけられ副会長に

されてしまいました。

早川さんの次のお子さんには間があつたので、三年間で早川さんの会長時代は終わってしまったが、私の次男は既に在学しておつたため、順送りに会長におし上げられました。次男の卒業の年に三男が入学し、会長を五年間つづけて勤めさせていただきました。

そのころには、あとに子どものいないことを残念に思うほど P・T・A の仕事

が楽しく、張り合いのあるものを感じられ、自分自身のために勉強になりました。あれこれあげつらうと、お世辞めくので申しませんが、城北中で得たことが心の糧となり、それまでの私——親の傘をかむつた二代目。学生時代に教えてくださった先生方、青年時代の知己、野戦における体験の重なり合いで、ようやく四十代に別れを告げた私——にプラスされ

P・T・A の仕事が終わると同時に、ショッピングづくりに専念する運びになりました。岡崎の小売商、長年の念願が穩つて、岡崎の商業ゾーンを昂揚するきっかけをつくることができました。(西三河の中心都市として、商業ゾーンと文化ゾーンは、何としても岡崎が育てあげねばならないと思います)

こうしたこともあつて、昨春、商工会議所役員改選の際、思いもかけず、商業界代表として副会頭の一人に推薦されました。重責にひしがれそうな思いで、新商工会議所会館の構想を練っているうちに既に一年有余を過ごしてしまい、焦燥の念にかられる昨今、P・T・A 時代がとりわけ懐しく思い出されます。あのころは、ちょうど私の五十年代でありました。

これは、齢のせいかなと思わないでもありませんが、P・T・A の仕事には、第一にてらうがありませんでした。子どもたちのためというところで、P も T も一つに結びつくことができず、他の老婆と異なることでありましよう。六十代も、がんばり通したいものです。

(岡崎ショッピングセンター) 理事長

勉強



いまはむかし

・わが師、わが父

読書に興味を持つようになったのは、G 先生のお陰である。小三の春、図書館に案内され、初めて本の借り方を教えてもらった。自分で選択する喜び、書物が見せてくれるおもしろさにぐいぐい惹かれていった。

G 先生は、辞書の引き方も教えてくださった。一つ一つのことばが、生き物のように心の中に飛び込んで来た時の驚き。国語の勉強がこんなにもおもしろいのか、と心を震わせたのは、あとにも先にもこの時限りだった。

勉強部屋の机の上には、父が考案し、作ってくれた鉛筆削りの箱が置いてあった。シュツ、シュツと小気味よい音をたてる小刀の感触を今も鮮かに思い出す。これも、父が研いでくれたものである。なにかも手づくりの味。質素な勉強部屋ではあったが、そこには間違いなく暖かなぬくもりがあった。

・ひまな時代

勉強をしたなんて覚えは、さらさらない。勉強部屋なんてシャレたものはなか



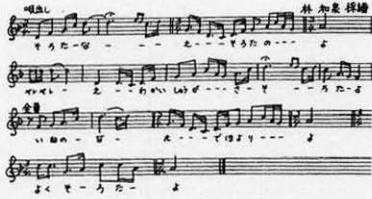


岡崎長持唄

夏の菅生、秋の伝馬天神の祭に夜空を彩る花火は、古くから市民に親しまれてきた。

この長持唄は、神に奉納する花火を各町の若衆がかつぎ、町中をねり歩く際にうたわれる大変威勢のよいうたである。また、後唄は花火を打ち上げた後の帰りの唄で、調子も哀調をおびた味わい深いものである。

長持唄 (前唄)



長持唄 (後唄)



今回は、伝馬天神の祭の際うたわれた「長持唄」を、その保存に力を入れてみえる石屋町(石屋団地)の方々にはうたっていただいて採譜した。

▼前唄

一、そなたナーエーそなたのよヤレ〜
ええ若い衆がき そろたよ
稲のナーエ 出穂よりよ
よくそなたよ ホラホイ〜

二、五万ナーエー でもよ ヤレ〜
ええ岡崎さ さまはよ
お城ナーエー 下までよ
舟がつくだよ ホラホイ〜

三、三州ナーエー三河のよ ヤレ〜
ええ矢作のさ 橋はよ
二百ナーエー 八間よ
長橋だよ ホラホイ〜

四、めでたナーエーめでたのよヤレ〜
ええ岡崎さ さまはよ
枝もナーエー 栄えてよ
葉もしげるだよホラホイ〜

▼後唄

五万石でも チヨイ〜
岡崎さまはよ アラヨイセ コリヤセ
お城ナーエ 下まで ソレエワヨ
エエー 舟がつく

コラ〜 ヤットコセエ
ヨイヤナー アリヤリヤ
ホイ コレワイセ
ホイサー
ナンデモセー

(現職教育音楽部)



つたし、必要な時に経机(経をのせる机)を机代わりにしたものだ。それも、一年のうち数えるほどだったが……。
机に向かわない勉強というのなら、大いにやった。山の子は、季節の移り変わりに敏感である。そのときどきの山の幸は、桑の実、野いちご、ぐみ、すもも、そして柿や栗に至るまで、悪童連の口にはいらぬものはなかった。かばんを家において、それから一仕事というような要領の悪い奴はいなかった。

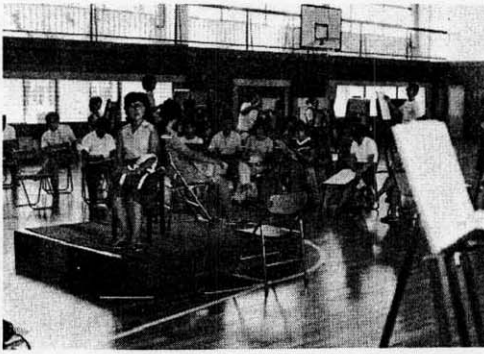
遊び道具も、なくてはならぬ生活の必需品であった。巧みに作る者、うまく使いこなせる者が群れの支配者であった。こま・たこ・竹とんぼ・竹馬・紙鉄砲など、どれ一つとつても熟練と工夫があった。

できあいのものがすぐ手にはいる時代と、いちいち自分たちでなにかを求め、作った時代と、どちらが幸せであろうか。

・受験生のころ

昭和十二・三年頃。受験戦争はすでに始まっていた。中学への受験生は、放課後には日暮れまで全国入学試験問題集に追われ、帰宅後は塾へ通っていた。塾へはいるにも試験があり、競争率十数倍の狭き門であった。塾の終わりは午後十時。両隣りの家にも受験生がいて、いつまでも窓からあかりがもれていた。あのあかりが消えるまでは、とわが心に言い聞かせながら、ひたすら励んだものである。

(細井浩平・宇佐美利郎・浅井千代子先生のお話から。)



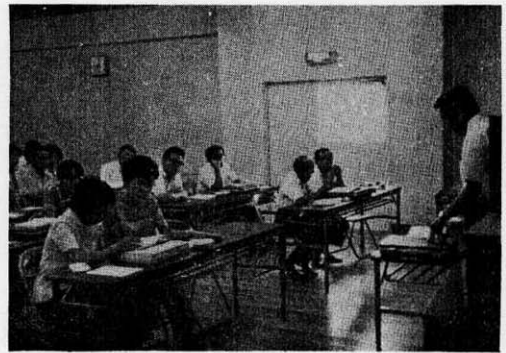
◀ 国語 できばえも上々。文集を手にとり、
図工・美術 画伯に見つめられて、デッサン



▶ 音楽 アルトリコーダーの音も軽く
技術・家庭 真剣な目、木工仕上げ



▶ 特殊教育 この知能検査はむずかしい
視聴覚 T P 作り—暑さも忘れて



夏に学ぶ

—夏季実技講習—

● 国語

原紙も溶けるほどの暑さ。だが昼食も忘れるほどの熱の入れよう。二期期からはよりよい一枚文集が生まれよう。

● 音楽

休憩時も続けられたアルトリコーダーのアンサンブル練習。グループによる発表演奏もすばらしかった。

● 特殊教育

炎暑も吹つとはず熱心さ。童心にかえり知能検査法の習得にがんばる部員。

● 図工・美術

自分のからだで覚えることの大切さ。あすの栄養を蓄えた気持ちでいっぱい。

● 技術・家庭

家具類の塗装技術を専門家の指導で習得する。製作物の塗装に活用したい。

● 視聴覚 (VTR)

中級はカラービデオ教材、初級はモノクロビデオ教材を作成。百二十名を越す参加者で大成功。

● 視聴覚 (OHP)

カラーシート、扁光紙などを使ってのTPづくりを中心に、八十名を越す参加者が熱心に受講。



◀ 社会 真宮遺跡発掘現場の見学
図書館 慎重なブックカード作り

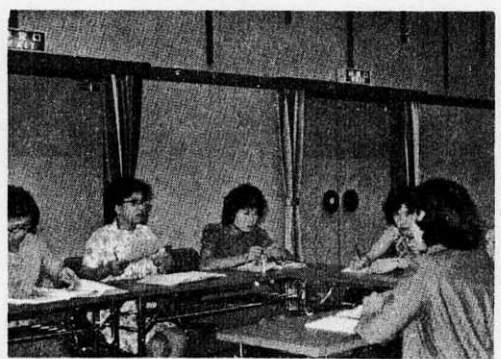


▶ 書写 「どう、このできばえは。」
家庭 VTR 「ミシンの使用法」を作製



◀ 英語 TPの作り方、生かし方

▶ 養護教諭 緊張した空気を、充実した講話



● 社会

埋蔵文化財の話は印象的。工場、宝物発掘現場等の見学は貴重だった。二日間が短かった。

● 書写

筆を持つことが苦手な人も、好きな人も真剣だった。整った美しい字が書けるようになった。

● 養護教諭

講演を聞いて責任の重大さを再認識。困難の中から一歩でも前進しなければならぬと思う。

● 図書館

学校図書館運営の上での事務処理。効率と効率を高めるために役だった。

● 家庭

バラエティーに富んだ会。ことにVTRの資料作りには新たな喜びがあった。

● 英語

自作T・P作成についてのシンポジウムと、作成に当たっての班別討議が参考になった。



随所に主となる

浜松市立都田南小学校長

荒木由喜子

若干ひとりよがりかと思いますが、自分の歩いた道をふりかえりながらお話をさせていただきました。わたしは今、教員生活三十二年目を歩いております。本

校へ転任しました。ここでは、まだ指導要領のできていない家庭科に取り組みました。暗中模索で六年生の家庭科を教えま

でまとめさせていただきます。最初に人生に教職を位置づけると言いましたが、若い先生は新卒五年間が勝負だと言われま

のみ維持できるものと思います。ポストに人を得ることは大事ですが、また逆にポストは人を育てるといふこともあると思

どもの理解と協力なくしては勤められません。しかし、自分の健康や、あすも気持ちよく勤めるといふことを考えると、家事のうちで人に任せられるものは任せてしまうことも必要でし

音でやめたいと思つたことはございませぬ。結婚をし、ふたりの子どもの母になり、十七年間病床に伏した母の世話をすると

それから附属へまいりました。ここでの五年間はたいへん厳しいものでした。毎日が研修即実践です。家に帰れば、下の乳飲み子がキヤアキヤア泣き、毎日

わたくしも親が子どもを思う気持ちはお産をして初めて知りまし

必要です。むずかしい仕事は男の先生がやってくださるという気持ちでは成長しません。

最後に、これからの時代に生きる婦人教師の役割は、主体者になるため、自ら求めて勉強すること、(主体とは自ら思惟し自ら追求し自らその結果の責を負う)それは、日々の営みの中で実証していくこと以外にはな

私を育ててくださった多くの先輩、なかでも浜松市での最初の婦人校長との出会いです。それが、わたしを三十二年間支えて

代だつたと思ひます。次に城北小学校へ転任しました。ここでの七年間は充実した毎日で、上席女教員としての務

「男女同権、同一労働、同待遇」は、学校の先生くらしいのもので、これは婦人教師の実質に即して

主体的に動くことでこなせると思います。家族の労は十分ねぎらつてください。夫・両親・子

文責
広幡小 小林かほる
美川中 久野みち子

言われました。

いたのもこの時です。

です。

「先生、M君が入ったよ。早く見て」プールではしゃいでいた子どもたちの目が一斉にM君に注いだ。

私が、どんなに励ましたり、なだめたりしても水際までくると逃げ腰になつてしまい、どうしても入ろうとしなかつた。それでも「弱虫だなあ」などといわれるのを何度か見た。そのたびに人けをさけすみっこで足を入れたり出したり必死の努力を続けてきたのだ。「M君ごめんね」と心の中でつぶやいた。

私の中にはつい今まで、細くてきゃしゃなM君しかなかったのに、その努力は教師としての私に反省と貴重な示唆を与えてくれた。(矢作東小)

て、浜松師範の第二附属でした。ここでは必死に勉強して研究授業をやつたり、社会科のカリキュラムの構成について教えを受けたり、ひたすら夢中でやつたという時代だつたと思ひます。

その後は、指導主事という体験から、先生方の実践を拝見させていただき、視野の拡大がで

「かがみ」よわ虫

山本頼永

「先生、M君が入ったよ。早く見て」プールではしゃいでいた子どもたちの目が一斉にM君に注いだ。



おしらせ

発表会・作品展の実施計画成る

新しく技術・家庭作品展も

二学期中に開催する現職教育
 委各部の発表会・作品展等の計
 画が、夏休み中のそれぞれの部
 会などで次のように決まり、九
 月二学期の開始とともに具体的
 な準備をすすめることになった。

【理科作品展】▽期日十月三日
 ～八日(六日間)▽場所レオ
 五階催事場▽内容児童・生徒
 の理科研究物、科学的工作物な
 ど約三百点・特別コーナー「こ
 子どもの生活を科学する」作る
 コーナー、遊ぶコーナー、見る
 コーナー等の設置。

【造形おがきつ子展】▽期日
 十一月三、四日▽場所東公
 園▽内容「森で遊ぼう」を
 テーマに十ブロックによる展示
 ・課題作品として全児童、生徒
 の「森の生きもの」作品総数一
 万数千点の予定・造形広場では

▽西ドイツの人々(ヨーロッパ
 研修旅行日記から)黒野喜美著
 ・四十八年度県から西ドイツに
 派遣された市内福岡小の女教師
 の記録。ドイツの教育と生活を
 女性らしいこまやかな眼と心で
 とらえたほほえましい好読物。

【刊行あんない】

▽矢作西小五十年誌 矢作西小
 ・写真と年譜による学校の変遷
 史。克明な年譜も添えて九月一
 日記念式典に配布されたもの。

▽研究紀要「ひびき合い」

美合小現職教育編
 ・豊かな心情を育てる学級づく
 りをめざす教師全員の実践記録
 発表と先生の合唱・三部ブラ
 スバンド合同演奏と全員合唱。

■九月の研究発表校

【河合中】
 十一日▽主題「自然環境保全の
 教育を求めて」▽内容「公開授業
 研究発表、パネル、講演「人間と
 環境」横浜国大宮脇昭教授。

【常磐小・中】
 二十日▽主題「触れ合いによる
 個の育成」▽内容「授業、学年の
 時間、滝山寺東照宮見学、研究
 発表、講演「常民の祭りとその
 心」東京国立文化財研究所郷土
 芸能研究室長三隅治雄先生。

【矢作東小・矢作幼稚園】
 二十七日▽主題「考える子を育
 てる」▽内容「午前(幼)公開保
 育、研究発表、協議・午後(矢
 東 授業、分科会、講演「放送
 うらばなし」NHKアナウンサ
 ー 杉山邦博氏。

▽矢作西小五十年誌 矢作西小
 ・写真と年譜による学校の変遷
 史。克明な年譜も添えて九月一
 日記念式典に配布されたもの。

●昭和49年度中学校市長杯総合体育大会成績

〈総合成績〉

種目	性	1位	2位	3位
軟式野球	男	北津	東海	矢作
ソフトボール	女	岩山	東海	甲山
軟式テニス	男	香山	東海	矢作
バレーボール	女	矢作	南	美川
バスケットボール	男	甲山	竜崎	城北
卓球	男	矢作	城南	東海
ハンドボール	男	六ツ美	城北	葵・美川
体操	男	葵	竜崎	東海
剣道	男	福岡	南	甲山・城北
柔道	男	甲山	城北	福岡・矢作
水泳	男	竜崎	美川	葵
陸上	男	矢作	葵	甲山

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
男子総合	城北	矢作	南	甲山	葵	東海
女子総合	矢作	南	葵	城北	甲山	美川
男女総合	矢作	城北	南	葵	甲山	東海

●昭和49年度 第1回岡崎市小学校球技大会 第13回ソフトボール大会 第12回水泳大会……………成績

種目	性	1位	2位	3位
ソフトボール	男	連尺	広幡	山中・本宿
バスケットボール	男	愛宕	大樹寺	根石・広幡
バレーボール	男	根石	大樹寺	甲山・岩津
サッカー	男	羽根	根石	岡崎・福岡
水泳	男	根石	井田	三島

9月の行事

日	曜	行	事
1	日	矢作西小50周年記念式典	
2	月	短縮授業(6日まで)	
3	火	月報編集委員会(市役所)	
4	水	校長会(巽閣)教育実習打合せ(附小)	
5	木	現職教育幼稚園部会(矢幼)	
6	金	母と女教師の会(梅園小)	
7	土	岡崎の歴史編集委員会(羽根小)	
8	日	岡崎市婦人運動会(公園グランド) 市長杯争奪軟式野球大会(大門運動場)	
9	月		
10	火	新任教員研修会(市役所)	
11	水	河合中学校研究発表会 社会教育審議会(市役所)	
12	木	定例教育委員会	
13	金	現職教育図書館部講演会/岸武雄先生(婦人会館)	
14	土		
15	日	敬老の日 中学校新人水泳大会(葵中) 市民総合卓球選手権大会(市民体育館)	
16	月		
17	火	教研推進合同会議(葵中) 新任教員研修会 歴史物語編集委員会(羽根小)	
18	水	月報編集委員会(市役所)	
19	木		
20	金	常磐小・中学校研究発表会 文化財保護審議会(市役所)	
21	土		
22	日	市民陸上競技選手権大会(県営グランド)	
23	月	秋分の日 スクールバンド発表会(市民会館)	
24	火		
25	水	教研集会(葵中)	
26	木	教育委員学校訪問(常磐南小、矢作中)	
27	金	矢作東小、矢作幼稚園研究発表会	
28	土		
29	日	西三河総合バレーボール選手権大会(市民体育館)	
30	月		



この本を

○歩行文明 P H P 研究所	49・7	真鍋 博 ¥ 780
○「自分で考える」ということ 角川文庫		澤瀉久敏 ¥ 100
○大東亜戦争の遺産 中央公論社	48・11	上山春平 ¥ 580
○古代十一章 毎日新聞社	49・6	中西 進 ¥ 900
○生きるとは何か 岩波新書	49・1	島崎敏樹 ¥ 220
○続死ぬことと生きること 築地書館	49・7	土門 拳 ¥ 1200
○佛心(続)現代の名僧を 双葉社	たずねて49・7	高瀬広居 ¥ 800
○火の国の女の日記(上・下) 講談社文庫	49・4	高群逸枝 ¥ 820
○海舟余波 文芸春秋	49・7	江藤 淳 ¥ 1200
○落日燃ゆ 新潮社	49・1	城山三郎 ¥ 850

寸言

▼かゆき夏果てぬすつくと曼珠沙華
黒い膚。白い歯がこぼれる。背たけも伸びた。この子らとの暮らしが始まる。 西東 三鬼

▼「見る」のは肉眼で。「観る」は、色なきもの、音なきものを、心の目でみる。こと。いっそう、子どもたちを「観」つめたいもの。

▼ふるさとの歌が失われたとき、ふるさと失われる。子どもたちの唇から、わらべ唄の聞かれないことは寂しい。